

立って半畳、寝て一畳

校 長 武井 正明

先週土曜日は、自分が所属するゴルフ場研修会の今年最後の競技。

秋晴れの天候とは打って変わって、スコアは土砂降り。何をやってもうまくいかず、ダントツの最下位。悔しく情けない、涙も出ない散々な一日であった。

その夜、メンバーの方3名の還暦祝いの会が長岡で、開かれた。私にとって、様々な職種の方々と情報交換できる、楽しい時間である。

いつも可愛がっていただいている、今年75歳になる大先輩と隣になった。

先輩は四十代で、死を覚悟するような大病を経験した。しかしそれを乗り越え、63歳で独立、現在も会長として現役でご活躍だ。ゴルフも私たちと全く同じティーからプレーしている。プレーも迷いが一切なく、早い。全身活力と逞しさに満ちている。かつては県アマのシード選手にもなった、あこがれのすごい方だ。

「オレが武井さんの体と飛距離があつたら、ものすごいスコア出せるけど、一体何が悪いのかねえ…」先輩は、本当に不思議そうに首を傾げる。

「アタマですかねえ…」「武井さん、頭はそんなに悪くないだろう？」

「ええ、…どうかなあ…」「じゃあ、何だろうかなあ…」やっぱり原因はアタマか…。

先輩は、最近眼の調子が良くない。でもまあ75だしな、と笑う。

人生について訊いてみた。

「自分はこれから六十代に入って、その先、先輩のように七十代に入っても、元気にやっていきたいのですが、その秘訣みたいなものは何ですか？」

先輩は、少し間を置いて頷き、こう答えた。

「武井さん、人間なんて所詮『立って半畳、寝て一畳』だよ。どんな人間だって、そんな大したことはないんだ。そのうち身体だって、若い頃のように動かなくなってくる。欲をかかずに、そこそこでいいんだと思ってやることだよ」

そういえば昨年亡くなった先輩も、よく私に「身の丈プラス1だよ」と葉書に書いて励まして下さっていた。

先日中越高校に指導に来たイチローも、「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行く唯一つの道」と言っている。

そう、何事も近道はない。毎日楽しく、無理し過ぎず、何か一つ掴めるように、少しずつ前進しながら生きていきたい。

そして、私の今週一番の楽しみは、音楽祭での吉中生達の歌声だ。彼らの歌を聴くことで、5歳若返ると信じている。今週いっぱい、校内中にあふれる歌声を堪能したい。可能な限り聴き込んで、当日を迎えるぞ!!